

埋蔵文化財調査センター  
ニュースレター

## 特集 擦文文化の竪穴住居址

北大構内の遺跡では、平面四角形の竪穴でカマドが設置された形態の住居址が、擦文文化のサクシュコトニ川、セロンベツ川沿いの高まりで発見されています。東北地方北部から北海道にもたらされた技術と考えられているカマドおよびカマドのある竪穴住居址は、北海道の各地で約500年の間（新石器後半から約13世紀）に採用された居住形態です。このような竪穴住居が1棟〜4棟で集落が形成されます。集落地は河川を遡上するサケ網の捕獲に適した場所を選定した傾向があります。本特集では、擦文文化の竪穴住居址を取り上げます。



▲K39道跡薬学部研究棟地点の第1号竪穴住居址（HP01）、第3号竪穴住居址（HP03）の立地  
サクシュコトニ川中流域右岸に位置する薬学部研究棟地点では、河川に沿った微高地上に2基の竪穴住居址（HP01：擦文前期、HP03：擦文中期）が発見された。居住域の中央部付近には続縄文前葉頃までに埋まってしまった河道が湿潤な窪地となって存在していた（珪藻分析の結果より）。小河川寄りの湿潤な窪地を擁する微高地上に竪穴住居が構築された事例である。

## ■ 高畑宜一と札幌キャンパスでみられる竪穴住居の窪地

高畑宜一（たかひたけよしかず）は、明治中期に北海道考古学をけん引した人物です。高畑は、現在では埋没河道となっている小河川の流路沿いに残された窪地（約700箇所）を克明に記録しました（右図）。それらの窪地は、擦文文化の竪穴住居の跡が土で埋まる途中の状態です。

1987（明治20）年、高畑は、明治学院普通学部（現明治学院大学）に入学し、島崎藤村と同級生で親交がありました。後に藤村は、高畑のことを「努力家」と随筆の中に記しています。

高畑が作成した「旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図」からは、その人柄が伝わってきます。

高畑宜一による「旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図」（複製、札幌埋蔵文化財調査センター）  
1894（明治27）年ごろ和紙に墨汁でペン書きされた竪穴住居跡分布図。右図は現在北大構内の推定範囲を楕円線で加重した。植物園周辺および精華寺付近の湧水をとする河川（青線）沿いおよび埋没跡保存庭園周辺で点描が集中している。  
（右図：札幌市教育委員会「K39道跡第6次調査（第1分冊）」口絵1-9転載、加筆）



## ■ 【お知らせ】第11回調査成果報告会の開催

平成30年度に当センターで実施した埋蔵文化財に関する調査研究の成果について、下記のとおり報告会を開催します。

日時：平成31（2019）年3月9日（土）13:00～15:15（予定）

会場：北海道大学学術交流会館第一会議室  
（札幌市北区北8条西5丁目）

プログラム（予定）

12：30～ 開場

第1部 調査報告

13：05～13：40 高倉 純（埋蔵文化財調査センター）  
「2018（平成30）年度における調査概要」  
13：40～14：15 守屋豊人（埋蔵文化財調査センター）  
「K39道跡総合研究棟（機械工学系）地点の調査成果」

14：15～14：30 休憩

第2部 講演

14：30～15：15 鈴木琢也（北海道博物館）  
「北海道出土の須恵器と古代物流交易」

15：15～15：30 質疑応答

※事前申し込み不要  
詳細は当センターホームページなどをご覧ください。

## ■ 【お知らせ】第11回企画展示「平成30年度北海道大学埋蔵文化財調査センター調査成果速報展」の開催予定

平成30年度に実施した発掘調査などの速報展を平成31年2月1日（金）～平成31年3月11日（月）までの予定で開催します。

工学部周辺でおこなったK39道跡総合研究棟（機械工学系）地点の発掘調査成果（擦文文化前期：8世紀）を中心に展示を行う予定です。



▲K39道跡総合研究棟（機械工学系）地点で確認された竪穴住居址の調査風景

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第31号

発行：北海道大学埋蔵文化財調査センター  
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話：011-706-2671 FAX：011-706-2094

e-mail: hokudaimibun@gmail.com

URL: <http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/>

## 編集後記

擦文文化の竪穴住居址を集成すると、河川沿いに住まいが作られたことがさらにわかりました。分布からとらえられる土地利用が分かった一方、その場所を選んだ理由は不明な点があります。今後の取り組んでいく課題の一つです。  
（守屋）

## 擦文文化竪穴住居地の分布

### 擦文前期 (7c 後半～9c 前半)



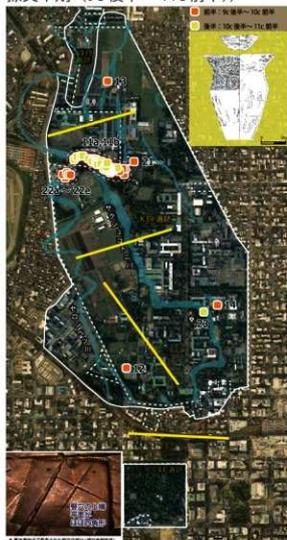
▲ 擦文前期では、竪穴が四角形の住居地の一边にカマドが設置される。

#### 擦文前期の竪穴住居地の一覧

番号	住居地	時期	調査機関	調査内容
1	K39遺跡(竪穴住居地)	HP01	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
2	K39遺跡(竪穴住居地)	HP02	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
3	K39遺跡(竪穴住居地)	HP03	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
4	K39遺跡(竪穴住居地)	HP04	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
5	K39遺跡(竪穴住居地)	HP05	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
6	K39遺跡(竪穴住居地)	HP06	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
7	K39遺跡(竪穴住居地)	HP07	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
8	K39遺跡(竪穴住居地)	HP08	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
9	K39遺跡(竪穴住居地)	HP09	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
10	K39遺跡(竪穴住居地)	HP10	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
11	K39遺跡(竪穴住居地)	HP11	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
12	K39遺跡(竪穴住居地)	HP12	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
13	K39遺跡(竪穴住居地)	HP13	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
14	K39遺跡(竪穴住居地)	HP14	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
15	K39遺跡(竪穴住居地)	HP15	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
16	K39遺跡(竪穴住居地)	HP16	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
17	K39遺跡(竪穴住居地)	HP17	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
18	K39遺跡(竪穴住居地)	HP18	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
19	K39遺跡(竪穴住居地)	HP19	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
20	K39遺跡(竪穴住居地)	HP20	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
21	K39遺跡(竪穴住居地)	HP21	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
22	K39遺跡(竪穴住居地)	HP22	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
23	K39遺跡(竪穴住居地)	HP23	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
24	K39遺跡(竪穴住居地)	HP24	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
25	K39遺跡(竪穴住居地)	HP25	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
26	K39遺跡(竪穴住居地)	HP26	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
27	K39遺跡(竪穴住居地)	HP27	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
28	K39遺跡(竪穴住居地)	HP28	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
29	K39遺跡(竪穴住居地)	HP29	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
30	K39遺跡(竪穴住居地)	HP30	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
31	K39遺跡(竪穴住居地)	HP31	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
32	K39遺跡(竪穴住居地)	HP32	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
33	K39遺跡(竪穴住居地)	HP33	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
34	K39遺跡(竪穴住居地)	HP34	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
35	K39遺跡(竪穴住居地)	HP35	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
36	K39遺跡(竪穴住居地)	HP36	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
37	K39遺跡(竪穴住居地)	HP37	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
38	K39遺跡(竪穴住居地)	HP38	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
39	K39遺跡(竪穴住居地)	HP39	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
40	K39遺跡(竪穴住居地)	HP40	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
41	K39遺跡(竪穴住居地)	HP41	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
42	K39遺跡(竪穴住居地)	HP42	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
43	K39遺跡(竪穴住居地)	HP43	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
44	K39遺跡(竪穴住居地)	HP44	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
45	K39遺跡(竪穴住居地)	HP45	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
46	K39遺跡(竪穴住居地)	HP46	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
47	K39遺跡(竪穴住居地)	HP47	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
48	K39遺跡(竪穴住居地)	HP48	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
49	K39遺跡(竪穴住居地)	HP49	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
50	K39遺跡(竪穴住居地)	HP50	東京大学考古学研究所	竪穴住居地

上記の分布図で示した前期・中期・後期の区分は上野地 (1999)、塚本 (2002) による。  
 上野野一他 1999 『擦文土器集成』『海峡と北の考古学シンポジウム』テーマ2・3資料集Ⅱ | 日本考古学協会 1999 年度創路大会実行委員会編 287-322 頁 日本考古学協会  
 塚本浩明 2002 『擦文土器の編年と地域差について』『東京大学考古学研究室研究紀要第17号』145-184 頁 東京大学考古学研究室

### 擦文中期 (9c 後半～11c 前半)



▲ 擦文中期では、竪穴が四角形の住居地の一边にカマドが設置される。

#### 擦文文化中期の竪穴住居地の一覧

番号	住居地	時期	調査機関	調査内容
114	K39遺跡(竪穴住居地)	HP114	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
115	K39遺跡(竪穴住居地)	HP115	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
116	K39遺跡(竪穴住居地)	HP116	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
117	K39遺跡(竪穴住居地)	HP117	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
118	K39遺跡(竪穴住居地)	HP118	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
119	K39遺跡(竪穴住居地)	HP119	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
120	K39遺跡(竪穴住居地)	HP120	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
121	K39遺跡(竪穴住居地)	HP121	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
122	K39遺跡(竪穴住居地)	HP122	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
123	K39遺跡(竪穴住居地)	HP123	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
124	K39遺跡(竪穴住居地)	HP124	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
125	K39遺跡(竪穴住居地)	HP125	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
126	K39遺跡(竪穴住居地)	HP126	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
127	K39遺跡(竪穴住居地)	HP127	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
128	K39遺跡(竪穴住居地)	HP128	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
129	K39遺跡(竪穴住居地)	HP129	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
130	K39遺跡(竪穴住居地)	HP130	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
131	K39遺跡(竪穴住居地)	HP131	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
132	K39遺跡(竪穴住居地)	HP132	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
133	K39遺跡(竪穴住居地)	HP133	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
134	K39遺跡(竪穴住居地)	HP134	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
135	K39遺跡(竪穴住居地)	HP135	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
136	K39遺跡(竪穴住居地)	HP136	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
137	K39遺跡(竪穴住居地)	HP137	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
138	K39遺跡(竪穴住居地)	HP138	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
139	K39遺跡(竪穴住居地)	HP139	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
140	K39遺跡(竪穴住居地)	HP140	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
141	K39遺跡(竪穴住居地)	HP141	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
142	K39遺跡(竪穴住居地)	HP142	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
143	K39遺跡(竪穴住居地)	HP143	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
144	K39遺跡(竪穴住居地)	HP144	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
145	K39遺跡(竪穴住居地)	HP145	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
146	K39遺跡(竪穴住居地)	HP146	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
147	K39遺跡(竪穴住居地)	HP147	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
148	K39遺跡(竪穴住居地)	HP148	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
149	K39遺跡(竪穴住居地)	HP149	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
150	K39遺跡(竪穴住居地)	HP150	東京大学考古学研究所	竪穴住居地

北大構内の遺跡では、計27地点で117基の竪穴住居地が発見、調査されています。時期ごとにみると、擦文前期で30基、擦文中期で50基、擦文後期で19基がみられます(その他、時期不明8基)。擦文中期で竪穴住居地の累積数がピークに達した後、擦文後期で約半数に減少したと捉えられます。  
 擦文前期から後期までの分布図によって、5つのエリアが想定できます。

### 擦文後期 (11c 後半～13c)



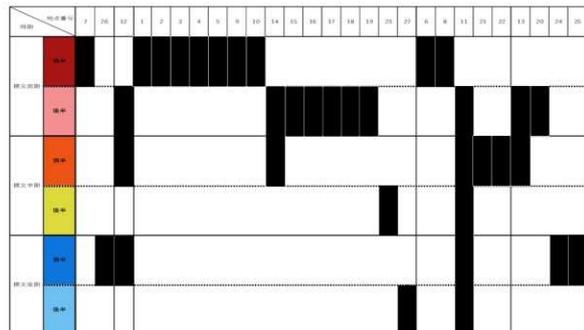
▲ 擦文後期では、ほぼ円形の竪穴にカマドが設置される住居がみられる。

#### 擦文文化後期の竪穴住居地の一覧

番号	住居地	時期	調査機関	調査内容
114	K39遺跡(竪穴住居地)	HP114	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
115	K39遺跡(竪穴住居地)	HP115	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
116	K39遺跡(竪穴住居地)	HP116	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
117	K39遺跡(竪穴住居地)	HP117	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
118	K39遺跡(竪穴住居地)	HP118	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
119	K39遺跡(竪穴住居地)	HP119	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
120	K39遺跡(竪穴住居地)	HP120	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
121	K39遺跡(竪穴住居地)	HP121	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
122	K39遺跡(竪穴住居地)	HP122	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
123	K39遺跡(竪穴住居地)	HP123	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
124	K39遺跡(竪穴住居地)	HP124	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
125	K39遺跡(竪穴住居地)	HP125	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
126	K39遺跡(竪穴住居地)	HP126	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
127	K39遺跡(竪穴住居地)	HP127	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
128	K39遺跡(竪穴住居地)	HP128	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
129	K39遺跡(竪穴住居地)	HP129	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
130	K39遺跡(竪穴住居地)	HP130	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
131	K39遺跡(竪穴住居地)	HP131	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
132	K39遺跡(竪穴住居地)	HP132	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
133	K39遺跡(竪穴住居地)	HP133	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
134	K39遺跡(竪穴住居地)	HP134	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
135	K39遺跡(竪穴住居地)	HP135	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
136	K39遺跡(竪穴住居地)	HP136	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
137	K39遺跡(竪穴住居地)	HP137	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
138	K39遺跡(竪穴住居地)	HP138	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
139	K39遺跡(竪穴住居地)	HP139	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
140	K39遺跡(竪穴住居地)	HP140	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
141	K39遺跡(竪穴住居地)	HP141	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
142	K39遺跡(竪穴住居地)	HP142	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
143	K39遺跡(竪穴住居地)	HP143	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
144	K39遺跡(竪穴住居地)	HP144	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
145	K39遺跡(竪穴住居地)	HP145	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
146	K39遺跡(竪穴住居地)	HP146	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
147	K39遺跡(竪穴住居地)	HP147	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
148	K39遺跡(竪穴住居地)	HP148	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
149	K39遺跡(竪穴住居地)	HP149	東京大学考古学研究所	竪穴住居地
150	K39遺跡(竪穴住居地)	HP150	東京大学考古学研究所	竪穴住居地

## 構内における竪穴住居の設営推移

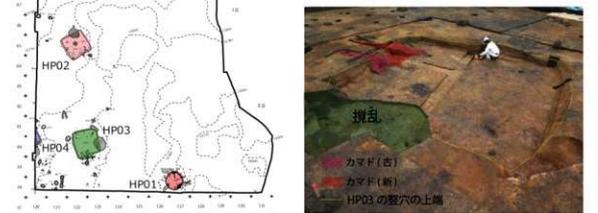
擦文文化の前期後半以降、断続的に竪穴住居の営まれた地点がみられるようになります。エルトンネル地点(番号11)では、サクシュコトニ川の氾濫によって形成された6つの文化層で竪穴住居地(総計55基)が見つかっています。農学部実験実習棟地点(番号12)では擦文中期後半で途絶えた竪穴住居の設営が、擦文文化後期前半にセロンベツ川の右岸高まりで再開されたと捉えられています。



▲ 構内の27地点で確認された竪穴住居を、擦文前期～擦文後期に分けて、各地点における竪穴住居形成の推移を図示した。地点番号は左記竪穴住居地の一覧の数字と対応する。累積数の多い地点周辺では住みよい環境があったと推定する。

## K39遺跡農学部実験実習棟地点

農学部実験実習棟地点では、第3号竪穴住居地(HP03)南東壁で2基のカマドが発見されました。同時に2基のカマドを住居で使用していたのではなく、撤れたカマドを埋めて、その傍らにカマドを設置し直したと確認できました。  
 この竪穴住居地は、改築(補修)して再利用されていたと考えられます。



▲ 農学部実験実習棟地点で発見された竪穴住居地セロンベツ川右岸高地(積高約14m)で、擦文文化前期後半(HP04)、擦文中期前半(HP03)、擦文文化後期前半(HP01、HP02)の住居設営があった。セロンベツ川は本地点の西側約70mの位置に存在したと推定する。